EARTH新聞

生きたい未来のつくり方

みんなでしあわせになるために、地球、人、動物、植物、すべてにやさしくありたい。そのためにぼくたち一人一人ができることを考えて学んでいこう。

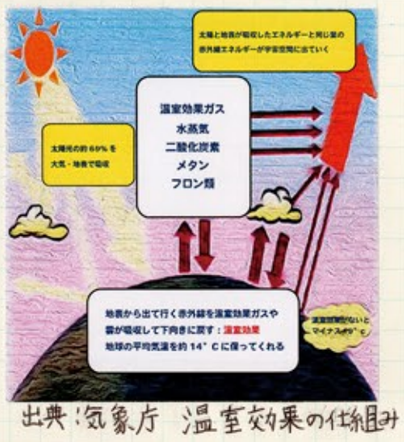
気候変動とは

気候変動とは、気候や気象パターンによる長いあいだの変化をしめします。これらの変化は自然現象の場合もありますが、1800年代以降は主に人間の活動が気候変動を引き起こしており、その主な原因は化石燃料の燃焼です。化石燃料を燃やすと温室効果ガスが発生し地球をおおう毛布のように太陽の熱をとじこめ気温が上昇しています。

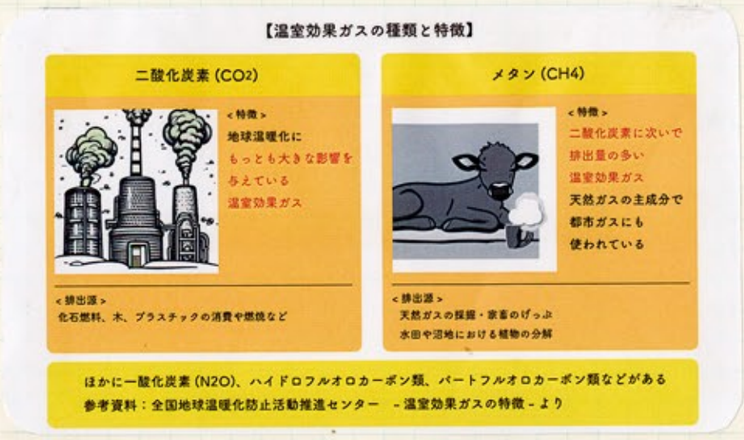
地球温暖化から地球沸騰化の時代へ

気候変動を引き起こす原因の一つといわれている温室効果ガス。わるいものと思われがちですが地球になくてはならない物なのです。温室効果ガスは太陽から放出された熱を地球にとじこめて地表を温める働きがあります。この働きのおかげでここちよい気温にたもたれていたのですが、温室効果ガスが異常に排出されるようになってしまったため、地球の気温がどんどん上がってしまい、地球温暖化から地球沸騰化に入ったといわれるようになりました。

（参考資料・国際連合広報センターより）



出典：気象庁　温室効果の仕組み



Let's Action!

わたしたちは、もっと便利でもっとよいものを手に入れようと、さまざまな物をつくり豊かな生活を手に入れました。しかしそれによって、地球をよごしてしまいこのままだと安心して地球にくらすことができなくなってしまうかもしれません。僕たちは幸せになろうと思ってこの星に生まれてきました。すこしでもよりよい世界にするために僕が学んだり行動していることをシェアしたいと思います。

SAVE THE EARTH ～みんなで地球をまもろう。ぼくたちにできること～

北海道札幌市立桑園小学校
6年　伊賀　海衣翔

発行日 2023年9月29日

1 自転車や歩きでかける。または電車やバスを利用しよう

石炭や天然ガス、石油でつくられた電気やエネルギーを使いすぎないことも大切です。

近くにでかけるときは歩きや自転車にしてみませんか？温室効果ガスのはりしゅつをへらせて気候変動をおさえることにもつながります。

2 週に一度お肉を食べる日をへらそう

ぼくたちがふだん食べているお肉。ウシやブタやニワトリを育てるにも地球にふがかかっています。ウシやヒツジなどの「はんすう動物」がするゲップもそのひとつです。

牛にふくまれるメタンガスも地球温暖化の原因のひとつといわれています。たくさんの牛を育てるために山や森を切りひらき、環境がはかいされています。このようなことからまもるためにも週に一度、お肉を食べない日をつくってみませんか？

3 オーガニックの輪を広めよう！

人や社会、地球環境にやさしい消費行動をしよう。僕たちの選択の積み重ねが世界の人や環境に影響を与えたり解決していくことにも繋がります。どこでどんな風に作られているのか調べたり想像してみましょう。僕はできるだけオーガニック製品を選ぶようにしています。*1

*1 オーガニック製品が生まれる過程には地球より生きとし生けるものや自然環境など無数の物質が関わってきます。僕たちの元に届くまでに「生産」「流通」「消費」などの営みの中でつながって関わるすべて幸せになれる仕組みのこと。（国際機関IFOAMが策定したオーガニックの定義）

4 声をあげよう

平和な世界を願う人たちの力が3.5%集まればその活動は世界を変えられるともいわれています。*2 学んだことや知ったことをみじかな人にどんどんつたえていきませんか？一人の一歩が世界を変えるきっかけになるかもしれません。そんな未来を想像するとなんだかわくわくしてきますね。

*2 ハーバード大学の政治学者エリカ・チェノウェス教授が発表した研究結果（参考資料・国際連合広報センター個人でできる10の行動より）

ぼくたちのくらしとエネルギーについて八ヂドリ電力の小野さんにお話を伺いました。

①今の日本ではたくさんの化石燃料を使っているのはなぜですか。

日本では元々火力発電が中心に使われていて自然エネルギーで作るエネルギーより大きな発電所を建てて作る方がコストを下げれます。東日本大震災で原子力発電所をだんだんと動かさなくなって今は火力発電が中心となっています。あと自然エネルギーは予測の立たないエネルギーなので例えば、太陽光エネルギーだと今日と明日で発電量が変わったりと変動がしやすいんです。電力は必ずこの時間に使う分を発電して届けなければならない。その調整に自然エネルギーだけでは難しいので火力発電や原子力発電のように自分で燃やせば燃やすだけ発電のコントロールができるものを中心的に使われているというのがあります。

②色々な発電方法を使えばエネルギーは一日中足りますか。

そうなんです！太陽光発電は朝から夕方までしかできないけど、風力発電は風さえあれば発電できます。地熱発電は土の中の熱で発電していきます。小水力発電は川の流れを利用した水車のようなもので24時間発電ができます。継続的に発電ができるのでそれらを組み合わせることで安定できるというのは他の国でもできていて日本でもできることです。

③火力発電が地球温暖化に与える影響はどのくらいですか。

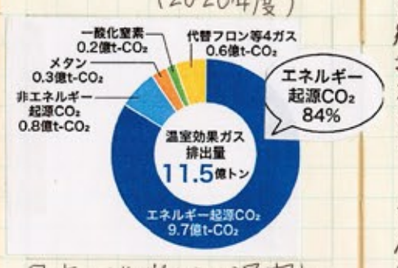
ハチドリ電力のホームページにも数字を載せていて、日本全体の二酸化炭素が地球温暖化になっている原因のひとつなんですがその二酸化炭素を出している量が国全体で見た時に実は発電によるものが全体の40%を占めていて、その理由がいまの日本の火力発電で約80%ぐらいなので火力発電から自然エネルギーに変換できると二酸化炭素がでてる分の40%を削減できる人で大きいものになります。それくらいインパクトの大きいものになります。

（出典：ハチドリ電力ホームページ 2018年度）

④日本が自然エネルギーに変わっていけるにはどのくらいかかると思いますか。

ドイツやオランダとかでは自然エネルギーの割合が高いんです。今は大きな発電所が町にどんとひとつあって色々なところに電気を送っているんですね。なのでその発電所が止まってしまうと大停電が起きるという状態で、そういう風に自然エネルギーを作ると難しいんです。

[日本の温室効果ガス排出量]（2020年度）



日本で排出される温室効果ガスの84%がエネルギー起源の二酸化炭素です。つまり火力発電で化石燃料を燃やすときに発生していることがわかります。二酸化炭素を減らすには、火力発電以外の発電方法の非常をふやす必要があるのです。

[日本の温室効果ガス排出量の推移]

東日本大震災以降、温室効果ガス排出量は増加しましたが、2020年度は1.5億トンまで減少しました。
今後も、削減に向けた努力を続ける必要があります。
（出典引用：資源エネルギー庁）

⑤どうしてエネルギーのお仕事をしようと思ったんですか？

地球温暖化をどうしても解決したいと思ったんです。スウェーデンの環境活動家のグレタ・トゥンベリさんの存在を知って地球温暖化について調べていくと人間がだしたCO2で人間以外の動物や植物が100万種類絶滅に追いやられていることを知ってなきゃと思いました。まず何とかしなきゃやろうと色々考えても小さなインパクトしか生めないような気がして、本当に解決できるのかとずっと考えていくと一番大きなインパクトを出せるのが電気でした。日本はほとんどが火力発電でるのが電気でした。日本はほとんどが火力発電でたくさん物を燃やして電気を作っているのでそれをやめたら半分ほど私たちがだしているCO2を減らせることに気がついて、それならば電力をやってみようと思って一番大きなインパクトを出せるものでエネルギーを選びました。

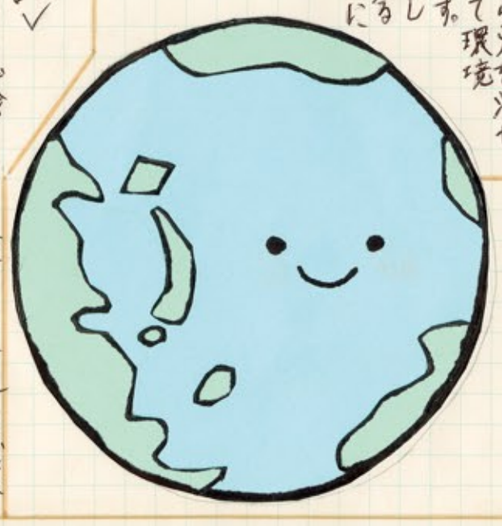
⑥ハチドリのひとしずくで地球環境を良くしていくにも一人一人の力は小さくてもたくさん集まれば大きな力になるんだなと思いました。知れば良いし大事なことだと思いました。

あれは南米に伝わる古い物語で主人公が周りにばかにされてもだよで私はできる事をしているだけだと答えます。その後に続きを描いて、ハチドリが雨を運んでる姿を見て笑っていた動物達がみんな一緒に水を運んでくれるようになったというお話です。

ハチドリのひとしずくだけだから火は消せなかったかもしれないけどその一人の行動を見た周りの動物達がみんなで協力したら火を消せたかもしれない。という物語を描いて環境問題もそれと一緒だなと思っています。

一人だけの力では変えられないかもしれないけど一人一人がやっている姿を見ることでみんながやっていければ絶対に変わっていくと思っています。

今と違う形でマイクログリッドという言葉で言われる方が多いのですが、例えば自分のお家で発電をしてその発電した電気を自分で使ってそれ以外の余りない分を大きな発電所からではなく小さな市や町から買ってくる。小さい発電所がたくさんできていくことが日本全体できれば発電所がたくさんあっても大きな発電所からでは買ってこられるようになってオランダとかではお家で作った電気を隣の人に分けてあげるというのができるようになっているんです。分け合って助け合える世界を作っていけたら自然エネルギー100%のせいでは電線がみんな共通のものを使っていくと思っています。ただ日本では電線がみんな共通のものを使っていて中々自分のお家で発電したものを隣の人にわけることができなかったりもするので2.30年後にはむずかしくても、50年後100年後にはできてるかもと思っています。



〈編集後記〉

僕が環境について意識をするようになったのは遠い国で僕と同じくらいの子ども達がごはんが食べられなかったり学校に通えず働かされているところもあると知ったのがきっかけでした。それが僕たちのくらしと大きくつながっていることも知りました。より良い未来のために一つ一つの選択を変えれる必要があります。エネルギーについてわからない事も多かったので色々と学ぶことができて良かったです。この新聞はすこしでも誰かのきっかけになれたらいいなという思いを込めて作りました。新聞作りに協力してくださった方々にも感謝をしています。ありがとうございました。

ぼくたちのくらしとエネルギーについて八ヂドリ電力の小野さんにお話を伺いました。